

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1071000309
法人名	株式会社トミタ
事業所名	グループホームなかよし倶楽部
所在地	富岡市七日市676-4 (電話) 0274-89-3000

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年2月26日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月 3日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人 非常勤 4人 常勤換算 6.4人	

### (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	1,500 円	その他の経費(月額)	バット代 100円/枚 ・水光熱費 500円/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 1,000円		

### (4)利用者の概要( 2月 3日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.2歳	最低	73歳	最高	103歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	富岡総合病院 ・ 公立七日市病院 ・ 安藤医院 ・ おのざわ歯科
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に立地し、近隣には医療機関、薬局、食堂等があり、ラーメン屋やそば屋には気分転換を兼ねて外食に出かけている。日常的に散歩をし、地域のお祭りには入居者の席が用意されたり、敬老会の発表会や作品展にも見学に行き、地域の人達との交流を深めている。入居者は人生の先輩であるという考えのもと、真の家庭となり家族となり得るように心の通った介護を目指している。重度化や終末期に向けた指針があり、医師、看護師等との連携のもと最後まで生活できる場となるよう努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は職員で話し合い、自己評価を全員で取り組み、入浴日を週2回から3回とし、入居者の希望を聞くように改善している。また、玄関の施錠は話し合ったが、安全を優先して鍵はかけている。運営推進会議の開催への取り組み等も検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員が意見を出し合い、ホーム長と管理者で改善点等を検討して作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>構成員は、家族、地区の組長、民生委員、市の職員とホーム職員であるが、出席者の日時の調整が困難で年に1回のみで開催である。ホーム側から、入居者の状況や事業所報告を行い、意見交換をしている。地域から「老人施設なので寄っていいか悪いかわからないので、地域の行事にどんどん参加したらどうか」との意見を頂き、行事参加に組み入れている。構成員には、運営推進会議の意味や役割を更に理解していただいて2ヶ月に1回程度の会議の開催を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱の設置や家族会は開催されていないが、家族の面会時には話しやすい雰囲気作りには留意されている。歩行訓練をしてほしい、薬が多いのではないかと、100歳を過ぎているので好きなように生活させてほしい等の意見や要望が出され検討し、運営に反映している。入居時に、意見や苦情を外務者へ表せる窓口を説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域で行う道路清掃に参加している。また、地域のお祭りや敬老会や作品展の見学に出かけている。散歩時に挨拶をしたり、野菜や花を頂いたり、大正琴、ハーモニカ、カラオケ等ボランティアの訪問があり、楽しんでいる。2~3ヶ月に1回は、近隣のラーメン屋やそば店等を利用して食事している。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設時のものを見直し再度つくりあげたものである。現在、更に地域密着型サービスとしての理念をつくるため検討している。	○	地域密着型サービスとしての理念を早い時期につくりあげるため、職員全員で取り組んでいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務室に掲げてあり、管理者と職員は理念を共有し、申し送り時やミーティング時に話し合っている。入居者の気持ちを表現出来るよう、日々の介護の中で家族のように接し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域で行う道路清掃には職員と入居者が一緒になってホーム前の清掃を行っている。地域のお祭りには入居者のための席を用意していただき参加したり、敬老会や作品展の見学に出かけている。散歩時には近所の方々とあいさつ等声をかけあい、野菜や花などをいただいている。また、カラオケ等のボランティアの訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、評価の意義を理解している。自己評価は、職員が意見を出し合い、ホーム長と管理者で改善点等を検討して作成している。前回の改善課題は、自己評価を全員で取り組み、入浴日を週に2回から3回と増やし、希望を聞くようにしている。運営推進会議の回数や玄関の施錠に関しては引き続き検討を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員は、家族、地区の組長、民生委員、市職員とホーム職員である。入居者の状況や事業所状況の報告等を行い、地域から「老人施設なので寄っていいかわからないので、地域の行事にどんどん参加したらどうか」との意見をいただき、意見を活かして取り組んでいる。会議は、出席者の日時の調整が困難で年に一回のみの開催である。	○	参加メンバーに会議の意義や役割を理解していただき、2ヶ月に1回程度会議が開催できるように働きかけていただくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護計画についてわからない時は介護保険課に出向いたり、ホームに住所地がある入居者が長期入院になる場合について(住所地はどうしたらよいか等)不明な点を相談したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は毎日、週1回、月1回の方とさまざまであり、利用料の支払いを兼ねての面会もある。面会時に入居者の生活の様子や健康状態を報告しているが、1ヶ月以上面会に来られない家族には手紙や写真を送付している。金銭管理については、月に1回出納帳のコピーを渡してしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見を聞いている。歩行訓練をしてほしい、薬が多いのではないかな、100歳を過ぎていたので好きなように生活させてほしい等の意見や要望が出され、検討し運営に反映させている。入居時には、意見等を外部者へ表せる窓口を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業主体である法人は、複数のグループホームを展開している。職員の離職時には早期に人員確保に努め、法人内の異動はホーム長と管理者が対象となっており、他の職員は異動せず入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に、オリエンテーション時、介護サービス提供マニュアルを配布している。現任者は、認知症実践者研修等年に1～2回外部研修を行い、内部研修を毎月1回日勤帯のカンファレンス時に行っている。リスク回避、緊急時対応、病名、ノロウイルス等の学習会を企画し、日々のケアに活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、開催される富岡市地域ケア会議に介護支援専門員が参加し、情報収集をしている。地域密着型サービス連絡協議会には加入していないが、法人内4ヶ所のグループホームがあり交流や意見交換が行われている。しかし、法人外ホームとの交流はない。	○	地域の同業者と交流する機会をもち、ネットワークづくりや勉強会、交換研修等に参加することにより、さらにサービスの質の向上を目指していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、本人、家族に見学に来てもらい、安心して利用できるように話し合っている。本人が他施設入所中の場合は、家族にきてもらっている。家族への電話の取り次ぎや面会の依頼、気分転換の外出等、徐々にホームの環境に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを、職員は共有している。日常生活の中で、昔の言葉や方言を教してもらったり、お焼き作りで中に入れるもののアドバイスや味見をしてもらっている。職員が疲れた顔をしていると、肩をもんで「どうしたの」と声をかけて励まされる等入居者から学んだり支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族に生活歴、家族歴、職歴等を聞き、今までどんな生活をされてきて、これからどんな生活をしたいのかを聞いている。日々の係わりの中で、入居者一人ひとりの言葉や表情、行動等から、本人の思いや希望を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に思いや意見を聞き、職員は日々の生活の中で気づいたことを申し送りノートや介護日誌に記入している。介護支援専門員は、ノートや日誌を見て介護支援経過に要約して介護計画を作成している。毎月1回の家族の面会時に、説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにサービス担当者会議を行い、意見を出し合って見直しを行っている。状態の変化時は随時見直し、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院援助を出来ない時や透析通院先の送迎がない時は、ホームで受診援助や送迎を行っている。また、入院時の衣類の準備や入院中の洗濯もしている。ホームの近くに自宅がある入居者には、毎日夕食後にお茶を飲みに出かけるため送迎を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を決めている。協力医は毎月1回は往診を行い、入居者の状態にあった対応策を相談し、助言や指示をしている。必要に応じて精神科医の治療も受けられるよう支援している。訪問看護師が健康管理に訪問し、医師との情報交換を密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に、重度化や終末期に向けた方針を、「重度化した場合における対応に関わる指針」をもとに本人や家族に説明し同意を得ている。終末期の対応は状態にもよるが、本人や家族の希望に基づいて、かかりつけ医や訪問看護師等と状況の変化やリスク等を話し合い、その都度対応している。昨年、入居者の看取りを行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、さりげなく声かけをしてトイレ誘導を行い、入居者の居室へ入る時は入口の戸をノックしている。介護計画等は事務室に保管し、介護記録は外部の人に見られない台所の棚に置き記録している。個人情報の取り扱いには注意し、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちに配慮しながら柔軟に対応している。希望にあわせて散歩やおやつを買いに出かけたりしている。意思疎通が困難な入居者には、「こういうものが食べたいのかな」と買ってきたり出来るだけ希望にそった支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、介助を必要とするテーブルと必要としないテーブルに分かれている。職員は、目の見えない入居者には献立の内容を話しながら、時には笑いを入れながら楽しく介助している。入居者が他の入居者のエプロンをかけてあげたり、コップのかたづけや下膳を行っている。職員1人は、同じテーブルで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を決めているが、一人ひとりの希望を聞き支援している。希望があれば、就寝前に入浴も可能である。入浴を拒否する入居者には言葉かけを工夫し入浴していただくが、無理強いせず、次の日に入ることもある。入居者の家族からいただいた袖で湯やしょうぶ湯等季節感を出し、入浴が楽しめるよう工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力量に応じて、清掃、下膳、洗濯物たたみ、ゴミの整理、花の水やり等をしていただいている。外食や花見の外出、誕生会、ボランティアの訪問等楽しみごとや気晴らしの支援をしている。また、系列のホームの畑へ行き、野菜作りや収穫をしたり、餅つき、バーベキュー、夏祭り等を合同で行い交流している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物、外食や花見に出かけている。また、地域の祭り、近所の神社へ初詣に出かけている。毎日夕食後にお茶を飲み自宅に帰る入居者には付き添うなど一人ひとりの希望にそった支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、玄関から出るとすぐ公道と線路となっている為、危険であり安全面を考慮し玄関の鍵はかけている。前回の外部評価でも改善項目とされたため職員で話し合ったが、開ける場合の方が弊害があるとの結論である。	○	入居者一人ひとりの行動を把握し、外へ出たい時の傾向等を話し合い引き続き検討されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署立ち会いで年に1回実施、消火器や消火栓の使い方も指導を受けている。自主的な訓練も年1回入居者と一緒に行っているが、避難訓練の意味が理解できる入居者が少ない。備蓄は、2～3日分している。災害時の地域の方の協力体制は話し合っていない。	○	日頃から地域住民との連携を図り理解を求め、災害時に地域住民の協力が得られるように組長や運営推進会議等で災害対策について取り組むことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量は主食・副食にわけて何割摂取したかをチェック表に記録し、職員は情報を共有している。栄養バランス表を参考に献立を作成し、高齢者が食べやすいように軟菜とし、きざみ、ミキサー、ペースト等、一人ひとりの状態や力に応じた提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、窓が広く天井が高く天窓もあり明るい。直射日光を遮るためのロールカーテンがある。一角に畳コーナーがあり、コタツやテレビが置かれくつろげる場所となっている。台所からはホール全体の様子が見える。要所要所に手すりがあり、トイレも車いすで入っても十分に介助出来る広さである。ホールには椅子やソファ、加湿器も置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の使い慣れた机や椅子、整理筆筒、テレビ等が置かれている。転倒の危険がある入居者は、ベットでなく布団が敷かれている。手作りのお祝い品が壁に飾られ、思い出づくりがされ、本人が居心地良く過ごせる工夫がされている。		